

卒業論文
縮小型地域社会における共同性に関する研究
——宮崎県綾町の自治公民館の機能——

2009 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2013 年 1 月提出

要約

本論文は、過疎農村を縮小型地域社会の先進事例とし、その内部共同性の維持についてヒントを見出すことを目的としている。縮小型地域社会とは、徳野（2011）によって提案された概念であるが、本論文では人口、世帯、地域集団のどれか1つの縮小が深化した段階にある地域社会と定義する。過疎は、渡辺（1968）によって①人口論的過疎②地域論的過疎に大別された。当時は人口論的過疎だけに注目が集まっていたが、さらに安達（1981）は地域論的過疎について「住民意識の面では”資本からの疎外”という、農民のもつ一般的疎外の上に”普通農村からの疎外”がもう一つ付け加わる形で、いわば”二重の疎外”にさいなまれるという意識の疎外状況が起き、これが生産や生活機能の麻痺と相互作用的に絡み合いながら、地域の生産縮小とむら社会の崩壊にむかって作用していく悪循環過程である」と述べ、その重要性を強調した。

宮崎県東諸方郡綾町はかつて「夜逃げのまち」と呼ばれるほど過疎の進んだ農村であり、2010年の過疎地域自立促進特別措置法によってはじめて過疎地域の指定から「脱却」することができた。しかし、現在でも過疎地域自立促進特別措置法のうち人口減少率以外の要件である若年者比率、高齢化比率、財政力についてはすべて過疎地域の基準にあてはまる。それにもかかわらず綾町が過疎地域の指定から「脱却」できた理由は、1970年頃から現在まで人口が7,000人程度で維持されているためである。つまり、綾町は人口論的過疎を「脱却」したと言える。その人口維持をもたらしたのは、1966年にはじまり自然生態系重視や本物志向などによるまちづくりを推進した郷田イズムであると予想できる。

インタビュー調査では、移住者の移住の契機と定住の条件、さらに移住者を受け入れる立場が考える定住の条件を明らかにすることで、綾町の地域社会における共同性を考察すること、また、人口論的過疎から「脱却」した綾町を地域論的過疎の観点から考察することを目的とした。その結果、やはり郷田町政時代につくりだされた綾町のイメージが移住の契機になっていることがわかった。移住者の目的合理的かつ価値合理的な思考が、自然生態系重視や本物志向によるまちづくりを推進した郷田イズムと合致したと考えられる。また、移住者を受け入れる立場である自治公民館の館長たちは、綾町での定住の条件として自治公民館活動への参加を挙げた。町内の22地区にある自治公民館は、地区内の共同性を維持する場として機能している。しかし、近年自治公民館への加入率は低下傾向にあり、自治公民館の館長は、移住者が綾町の利益だけを最大限利用した後に再流出するのではないかと危惧する。本論文では自治公民館が軽視されている一因として移住者と地元の人の

共同性の感覚の相違を挙げた。自身の目的合理的かつ価値合理的思考によって行動する移住者は「自治」に含まれる非合理性に違和感があると考えられる。自治公民館は、地区という単位で区切られており、参加を強制しているような部分がある。「つかず離れず」の関係を望む移住者は、その強いつながりを好まないこともあるようだ。一方、自治公民館以外の地域集団は多数存在しており、加入脱退自由かつ一定の目的をもつ地域集団は移住者にとって魅力的であるようだ。しかし、自治公民館は流動性の高い綾町で、共通の基盤としての機能をもっている。今後移住者をはじめとして自治公民館の機能を軽視する風潮が強まると、地域集団による共同性維持機能を衰退させ、地域社会の崩壊につながりかねない。つまり「人口論的過疎」に隠されて「地域論的過疎」が進む可能性も指摘できる。それを防ぐためにも移住者も自治公民館活動に積極的に参加し、綾町の地域住民としての役割を果たさなくてはならない。自治公民館という共通の基盤があつてこそ、ボランティアアソシエーションなどもうまく機能するのである。そのためには自治公民館も移住者にとってメリットを提供する存在となるべきであろう。このように縮小型地域社会では、人口や世帯、地域集団が縮小化しているゆえに、目先の人口増に希望を見出すこともあるだろうが、まずは内部の共同性を維持するために共通の基盤を安定させることが肝要である。

目次

はじめに	1
1 縮小型地域社会成立の可能性	1
1.1 縮小型地域社会の定義	1
1.2 縮小型地域社会の先進事例としての過疎農村	3
1.3 縮小型地域社会の先進事例としての過疎農村における地域集団の役割	4
2 縮小型地域社会としての綾町	5
2.1 縮小型地域社会としての綾町	5
2.2 縮小型地域社会としての綾町への移住	11
2.2.1 ネガティブイメージの払拭	11
2.2.2 ポジティブイメージの構築	14
2.2.3 郷田イズム	16
2.3 カリスマ的支配	18
3 縮小型地域社会における共同性の維持	19
3.1 調査の概要	19
3.1.1 調査の目的	19
3.1.2 対象者の選定	19
3.1.3 調査方法	19
3.1.4 調査における留意点	20
3.2 移住の契機と定住の条件	20
3.2.1 移住の契機としての郷田イズム	21
3.2.2 定住の条件としての仕事	27
3.3 共同性維持の場としての自治公民館	29
3.3.1 公民館論の展開	29
3.3.2 綾町の自治公民館	30
3.3.3 共同性維持の場としての自治公民館	35
3.3.4 自治公民館の未加入問題	38

3.3.5 共同性の感覚の相違	40
4 縮小型地域社会の可能性	44
4.1 内部共同性の維持	44
4.2 共通の基盤の構築	46
おわりに	46
参考文献	48

付録

H 公民館規約